

ひこさん  
英彦山宿坊・英彦山神宮の甦生を

徳義金の喜捨のお誘い



徳積

一般財団法人  
徳積財団  
TOKUTSUMI FOUNDATION

## ごあいさつ

私は一般財団法人徳積財団を運営している野見山  
広明と申します。この度、「徳義金の喜捨のお誘い」  
をさせていただきたく、資料を作成いたしました。  
徳積財団は、まだ誕生して間もなく、皆様のご協  
力を必要としています。

徳積財団は、資本主義社会の中では誰も手を出さ  
ないようなもののだとしても、未来から今を見た  
ときにこれは必ず伝承していく必要があり大切だ  
と思うものを子どもたちに残すために有志で立ち  
上げた財団です。

具体的には、日本人の大切にしてきた懐かしい文  
化の道具、暮らし、家などを甦らし現代の人が活  
用できるようにしたり、豊かな信仰の道を誰でも  
身近で感じ直せるようにしています。本年4月には  
その生き方を著書『暮らしフルネス』として発刊  
しその取り組みを弘めております。



## 徳積財団のこれまでの取り組み

徳積財団では、まだ設立間もないですが未来から今を考えて子どもたちに必要な文化や智慧、徳を譲る活動をしています。

福岡県の旧長崎街道の古民家群を再生し、ブロックチェーンストリートとして若いITエンジニアたちを育てる環境づくりをしました。

未病といって病気を未然に防ぎ心身をととのえる暮らしを学び、一生QOLを維持しながら働ける智慧を体験できる施設をつくりました。

農業では、いつまでも伝統固定種の種を守るために伝統野菜を育てその種を最先端の技術で守り続けられる仕組みを構築しています。

また子どもたちに日本の伝統文化を身近で実感できその体験を智慧にするためのワークショップなどを開催しています。

これから英彦山の宿坊の甦生と共に、日本古来からの消されたり埋もれたりしている歴史を甦生させていこうと思っています。



古民家聴福庵



場の道場 (BA)



祐徳石風呂



修験サウナ



徳積堂カフェ



著書 暮らしフルネス



藁ぶき古民家和楽



固定種の種トレーサビリティ



堀池高菜漬の復活

## この度の徳義金のお誘いについて

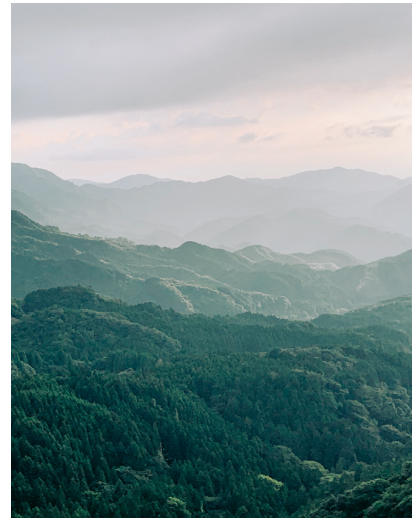
福岡県には、日本を語るうえで非常に重要な場所である「英彦山（ひこさん）」があります。ここは、一説によれば日本の原点、はじまりの場所と呼ばれています。しかし、残念ながら消えてしまった歴史があり、その歴史を甦生させていくことが徳積であると感じました。

現在は、明治のころの神仏分離で壊滅的な打撃を受け英彦山を守っていた山伏たちや信者も減り今では空き家が増えて山が荒れてきています。山が荒れれば、里山や田畑、川や海も荒れます。海は環境問題で最初に影響を受ける場所ですがその海を守るには山を守る必要があります。

この度、宗像国際環境会議でご縁をいただいた方々は海の現状を世界に訴えかけております。その海とつながり美しい水を膨大に大地に流し海を豊穰にする存在である英彦山の状況も皆さんに知っていただきたいのです。山を守る人々を増やしていきたい、それが私たちの徳積です。

そのために、その歴史を甦生し、徳を積み、山を守る人を探し求めていたところ日本文化研究者（文化庁長官表彰者）のエバレットブラウンさんが一緒に協力して下さることになりました。エバレットブラウンさんは現役の山伏でもあり、日本人の忘れてきている大切な心や生き方、そして歴史を思い出させてくれるような活動を外国人であるにもかかわらず私たち日本人以上に真摯に取り組んでくださっています。

その文筆家や写真家であるエバレットブラウンさんが英彦山に住んで活用できる宿坊をご縁あって徳積財団で甦生させていただくことになりました。この宿坊は「守静坊（しゅじょうぼう）」といい、現存する中で最も古い宿坊です。この宿坊の持ち主でもある長野覚様は山伏研究の第一人者で日本の地理学者、博士。駒澤大学教授であり英彦山出身。ご本人も修験道山伏の家系、豊前長野氏の子孫で守静坊10代目でした。



日本文化研究者 エバレットブラウン氏



エバレットブラウン氏と長野覚氏

もう一つ、ここには美しい文化遺産があります。それは樹齢200年以上の枝垂桜です。この枝垂桜も台風で傷んだこともあり数年前までは花が咲くこともなくなっていました。それを一人の投稿者の御蔭でKBCの協力も得て樹木医が入り立派に甦生し今ではまた美しい桜の花を咲かせています。この枝垂桜も手入れを続けなければまた枯れてしまいます。

そして先月、長野覚様は私に遺りを託してこの世を去られてしまいました。まだまだ長野様に教わりたいこと、指導していただきたいことが山ほどありましたが今ではそれも叶いません。しかし私たちは志を受け継いで立派にこの宿坊を甦生させたいと決意しました。

目標としては今月から甦生に取り組み来年の枝垂桜が咲くころには立派に宿坊を甦生させたいと思っています。そしてこの宿坊を使って英彦山という山を守り、日本の山を守るお手本になるようにし、そして古代から続いてきた信仰や歴史を甦生させる場所としてここに本物の文化の場を創造したいと思っています。また甦生後はエバレットブラウンさんとともに、この英彦山から真実を写した懐かしい未来の景色を通して、本当の日本の姿、日本人の原点、未来から見た今に必要な情報を日本内外へと発信していきたいと思っています。

もう次の宿坊の甦生も計画段階に入っています。それはかつて英彦山を守ってきた鍋島藩の宿坊の「増了坊(ぞうりょうぼう)」の甦生です。天井に穴があき雨漏りもひどく、このままでは宿坊も長くはもちません。まだ宿坊跡ではなく、宿坊と呼ばれているうちにすべてを甦生して山を守る拠点を整えたいと思っています。



守静坊の枝垂桜



宿坊 守静坊



## その先の目標

その先は、英彦山のすべての宿坊を甦生させそこで共に山を守る人たちを各地から集めたいと思っています。明治に散らばった山伏たちの志、山を守る人々を集めて宿坊に住みながら山を守りたいと思うのです。山を守ることが、環境を守ることであり、そして未来や子どもたちを守ることになります。

そのためには、皆様のお力が必要です。

現在、誕生して間もない徳積財団では度重なる古民家甦生で資金が底をついてきています。しかし待ったなしで壊れていく懐かしいものを守るためにはまだできることがあるとあらゆる方法で甦生を続けています。

日本人が今まで無事で幸福でいられたのには知恵がありました。それは「徳」という文化を大切にしてきたからです。長い目でみて何代も先の子孫たちのために本当に大切に必要なるものを「徳」の行いによって遺してきました。たとえ自分に利益がなくても、子どもたちのためならとみんなで少し損をしても徳を積んできました。また多少不便でも、不便を楽しみ味わい自然と共生しながら未来のために美しい環境を守り続けてくれました。みんな徳を積みながら、自分を磨いて魂をととのえて暮らしてきたのです。

日本を代表する有名な近江商人にはこういう言葉があります。「義を先にすれば、後に利は栄え、富を好とし、其の徳を施せ」と。そうやって、「徳義」を重んじてきたことで、その土地が自然豊かで人々の安心した暮らしも永続したといえます。その陰徳を積み続けるための喜捨として「徳義金」と名付けています。



宿坊 増了坊

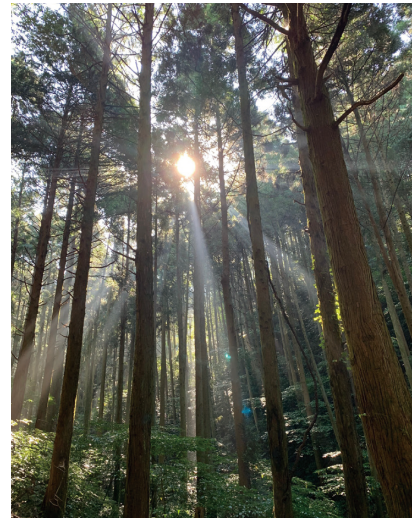


石風呂の蘇生



すべての宿坊を甦生するには、数億円という規模の喜捨と皆様のご協力が不可欠です。日本人はもっとも和を尊び、自然と共生してきた世界一の民族だと自負しています。これだけ自然の猛威を感じるところで、豊かに暮らしてきた歴史を持っているからです。その日本から世界にこの取り組みを発信して原点回帰するきっかけになればとも思います。

みんなで徳を積む喜び、徳を磨いて光らせる仕合せを、私たちと一緒に創造していきましょう。ぜひご協力のほどよろしくお祈いします。

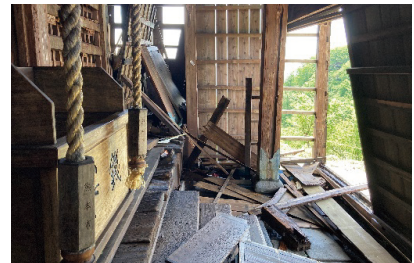


## 英彦山神宮御本社 上宮の修復 についてのお願い

英彦山の御本社の上宮が昨年9月の台風により甚大な被害が出ており、参拝もできない状態です。山頂にある上宮の修復とのこともあり英彦山神宮独自の財源だけでは及ばないほどかなりの費用が必要になります。



日本の歴史の中で、代々私たち子孫を見守り続けてくださっている心のふるさとでもある英彦山にご恩返しする貴重な機会とご縁です。ぜひ、一緒に徳積みの喜びと仕合せの豊かさを味わっていきましょう。



徳積みのお問い合わせをお待ちしています。





### ◇徳義金のお問い合わせ

一般財団法人徳積財団 野見山正輝 理事長より

「私たちは人への思いやり、人が喜べば私もうれしいと思う心と行いが徳と考えています。また人間の質を高める作用でもあると思います。」

徳義金喜捨募集費用 合計 2億円

英彦山上宮の修復費 1億円、増了坊の甍生費 7千万円、守静坊の甍生費 3千万円になります。上宮は全体の修復ですが、宿坊においては宿坊本来の状態として甍らせるため、茅葺屋根、祭壇、古材による修理、土壁の補修、囲炉裏、土間、建具などすべて修復します。

お問い合わせは直接お電話にてご連絡ください。計画と内容を改めてご説明させていただきます、現地での確認、ご納得いただいた上での喜捨をお願いします。

期間：2021年10月－2022年3月まで

**徳積** 一般財団法人  
徳積財団

TEL 0948-52-3221

MAIL [hiroaki@tokutsumi.or.jp](mailto:hiroaki@tokutsumi.or.jp)